

(イヌ)パルボウイルス 不活化試験結果の概要

*** 不活化とは、ウイルスが死滅することです。***

[試験機関] (株)食環境衛生研究所

[試験資材] オキシリンク-S P (1,000・5,000・10,000倍希釈)

≡ オキシリンクSPスプレー 換算濃度：(60%・12%・6%)

[試験対象] イヌパルボウイルス(CPV)：7,940株(株=個数)

[試験内容] 試験資材が試験対象に及ぼす不活化効果の検証(計測：開始後1分)

試験①：1,000倍希釈、試験②：5,000倍希釈、試験③：10,000倍希釈

[試験開始] 2013.08.01

[試験終了] 2013.08.30(試験機関による報告書作成日)

*** 菌やウイルスの死滅表現：菌 → “死滅”、ウイルス → “不活化” ***

【試験①】右グラフ図

≡ オキシリンクSPスプレー：60%濃度

この濃度で不活化率 93.70%以上

【試験②】下段左グラフ図

≡ オキシリンクSPスプレー：12%濃度

この濃度で不活化率 84.13%以上

【試験③】下段右グラフ図

≡ オキシリンクSPスプレー：6%濃度

この濃度で不活化率 変化なし

[所見] オキシリンクSPスプレーは本来は薄めずに(100%のまま)使用するものです。
 なので、上記それぞれの濃度によっては、試験開始後1分での除菌率には、明らかな優劣が見られました。

